

EUにおける地域イノベーションシステム 構築に向けた動向

2020年12月2日

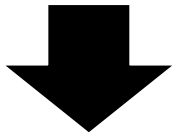
日本総合研究所 調査部

主任研究員 野村敦子

要点

■ 従来の地域イノベーション政策

: 政府からのトップダウン／国全体の画一的な政策



■ EUのスマート・スペシャリゼーション戦略

: 地域の独自性、優位性、自主性を踏まえた戦略に転換

- ✓ 国はビジョン・方向性を定め必要な環境を整備(規制緩和、共通資源等)
- ✓ 地域はそれぞれのイノベーション戦略、スマートシティ戦略等を立案・遂行
 - ➡イノベーションやスタートアップを創出するエコシステムを地域に構築
(多様なステークホルダーが協業し相互作用する「場」が重要)

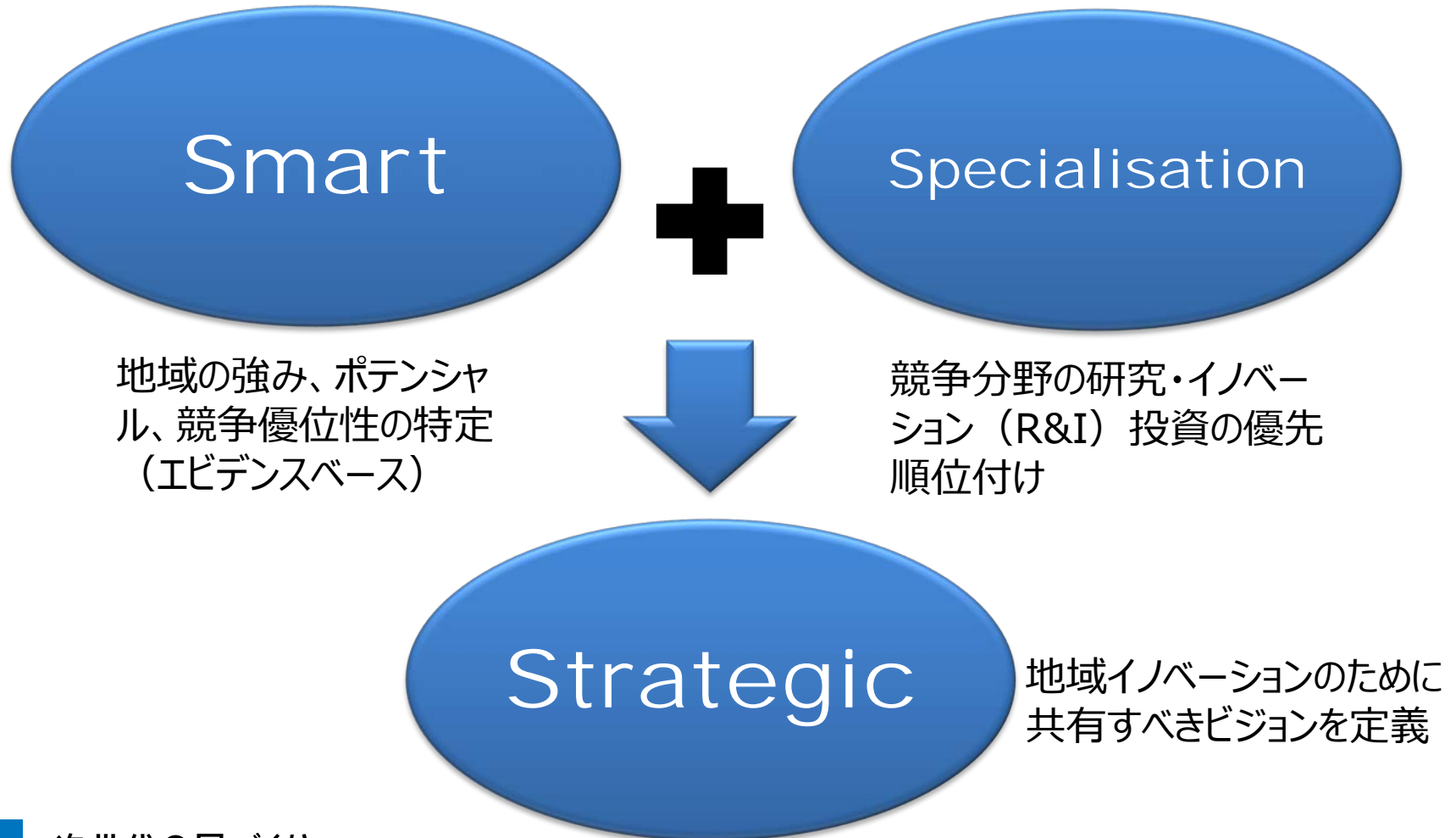
□ 地域力を引き出すための

「強みの特定」、「場の形成」、「多様なステークホルダーの参画」を進めるに当たり、どのような施策や枠組みが必要となるか

次世代の国づくり

EUのスマートスペシャリゼーション戦略

□ EUの地域イノベーション政策（2014年～2020年）



戦略立案の背景

EUの地位の低下

- 研究開発拠点・投資のグローバル化
- 知識基盤経済（デジタル／データ）の進展



スマートスペシャリゼーション

専門家グループが提唱（2010）
成長戦略に盛り込み
EU資金の応募の条件

- ◆ 知識資産の集中と集積、分野・地域の特定による強化
- ◆ 地域を自国やEU域内を越え、グローバルバリューチェーンに組み込み

地域経済の構造改革に向け、以下の取り組み

- Smart: 地域の強み、ポテンシャル、競争優位性の特定
←ボトムアップによる起業家的発見のプロセス、グローバルな見地
- Specialised: イノベーションを通じて地域の強みを一段と強化
←クリティカルマスに向けた集積、単一分野にとらわれない必要性
- Strategic: ビジョンや戦略（優先順位）を決定
←地域のパートナーや起業家と共創

従来の政策に対する問題意識

- 公的投資の細分化・重複、無差別な資金投入
- ワンパターン（one-size-fits-all）で地域の差異を考慮せず
- 地域内の協働、地域外の資源の活用等の不足

- ✓ KETs (Key Enabling Technologies: 先進製造、バイオテック、ナノテック、先端素材、フォトニクス、ナノエレクトロニクスなど) + ITに重点
- ✓ 行政単位・境界に縛られない取り組み
- ✓ 定期的なモニタリングと評価を実施（特化領域の入れ替えもあり）

S3と従来の産業クラスター政策の共通点・相違点

- 従来の産業クラスター政策
 - 中央集権型・全国均一型、広範囲への予算ばら撒き型、科学技術プッシュ型
- スマートスペシャリゼーション戦略
 - 地域自立型、将来性ある分野(地域特性により異なる)への資源集中型、需要プル型

共通点

- ◆ 遂行の牽引役：生産性とイノベーションが持続的成長に不可欠
- ◆ 生産性とイノベーションに多様な要素が影響
- ◆ 地理的近接性、地域への波及の重要性、立地背景の重要な役割

従来の政策の反省点

- ◆ 地域の産業界等によるボトムアップでなく政治主導
- ◆ 必要最小限・短期の資源投入にとどまる
- ◆ 個別セクターへのロックイン（固定化）
- ◆ 変革しようとする視点の欠如
- ◆ 地域の主体間の不十分な連携
- ◆ クラスター組織の事業計画の不在

スマートスペシャリゼーション戦略の特徴

- ◆ 目的：知識基盤経済の構築を目指す
 - ➔単なる産業振興・産業集積ではなく、KETs活用、構造改革などによる産業基盤の高度化がターゲット
- ◆ 対象：産業、経済、社会の課題解決
 - ➔イノベーションの範囲を科学技術ばかりでなくサービス・イノベーションやソーシャル・イノベーションに拡大
- ◆ 選定：トップダウンではなくボトムアップの取り組み
 - ➔「起業家的発見」プロセスを重視（後述）
- ◆ 焦点：特定分野に閉じた産業政策としない
 - ➔バリューチェーンを構成する機能や活動、地域・分野・組織の境界を越えた取り組みに焦点
- ◆ イノベーションの変化への対応
 - ➔定期的なモニタリングや評価を重視（場合によってはスペシャリゼーションを入れ替え）

スマート・スペシャリゼーション戦略の取り組みステップ

ステップ1: 地域の背景・イノベーションの潜在力の分析

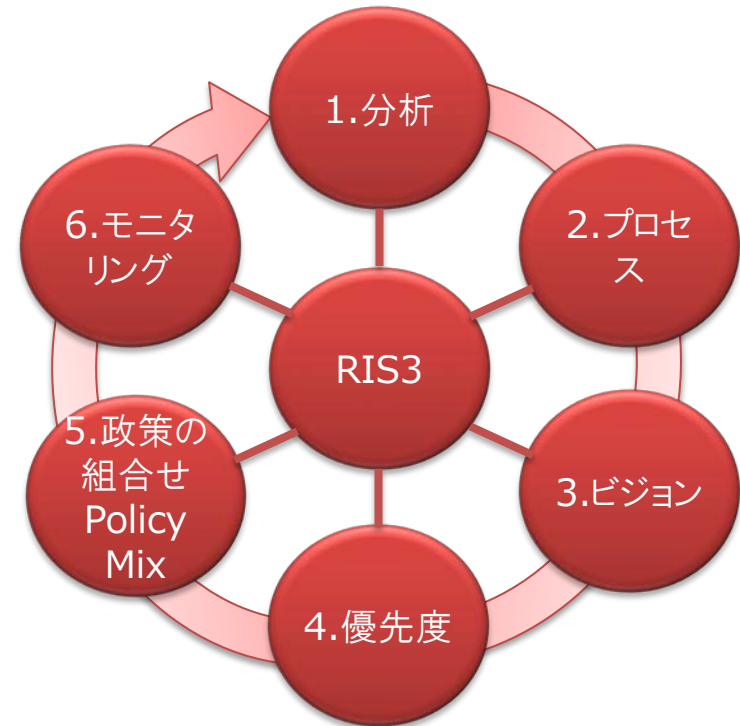
ステップ2: 戦略の策定とガバナンス(キープレイヤーの参加と当事者意識)

ステップ3: 地域の将来ビジョンの作成と共有

ステップ4: 優先分野の特定(具体的目標の設定、分野横断的な取組)

ステップ5: ポリシー・ミックス(工程表、行動計画)

ステップ6: モニタリングと評価のメカニズム



EUのスマートスペシャリゼーション戦略のポイント

□ 地域固有の歴史、文化、産業構造、ソーシャルキャピタル等の資源の活用

方法論 起業家的発見プロセス

- 知識の統合、つながりやパートナーシップの構築
- 新しい領域（市場と技術）の探索
- 起業家は、技術の知識と市場・経済の知識を結びつける
➡ 地域の強みを革新的な技術やアイデアと結びつけ
産業構造の変革、新産業創出、市場開拓

支援体制 S3プラットフォーム/JRC

- ガイドラインやグッドプラクティスの収集・共有
- 戦略形成のための情報提供や助言
- 専門家のレビューや相互学習機会等の提供
- 適切なデータの蓄積と提供
- 政策立案者向けのトレーニングの開発と実行

地域主体 トリプル/クアドラプルヘルクス

- トリプルヘルクス：産業界、科学界、行政（産学官）の緊密な連携
- クアドラプルヘルクス：産官学＋市民（社会的パートナー）の連携
- 協力と対話を通じた信頼関係の構築、触媒としての行政の重要性

スマートスペシャリゼーションの成果

スマートスペシャリゼーション戦略（2014～2020年）の成果

- 各地域における戦略の策定：120超
- 欧州の基金・国や地域から資金の確保：670億ユーロ超
- 15,000点の製品の上市
- 140,000社の新規スタートアップ企業創出
- 350,000人の新規雇用創出

国際的な展開

- S3プラットフォームにEU18カ国・約170地域及びEU以外の6カ国・16地域が参加
- 産業の近代化、デジタル化、エネルギー転換および農業食品などの分野における地域間パートナーシップおよび国際的パートナーシップも推進

次期プログラムの継続（2021～2027年）

- 引き続きEUの基金から資金提供の見込み

わが国への示唆

スマートスペシャリゼーション 戦略の底流

- ① イノベーションにより地域の産業、経済、社会を**変革する**という考え方
- ② **クロスセクトラル**な取組推進、**グローバルバリューチェーン**構築の視点
- ③ **トップダウン**の政策と**ボトムアップ**の戦略・計画・活動の連動
- ④ 地域プラットフォーム・ガバナンス構造「**Triple / Quadruple Helix**」
- ⑤ **モニタリングと評価**を通じた学習と対話のメカニズム

顕在化している課題

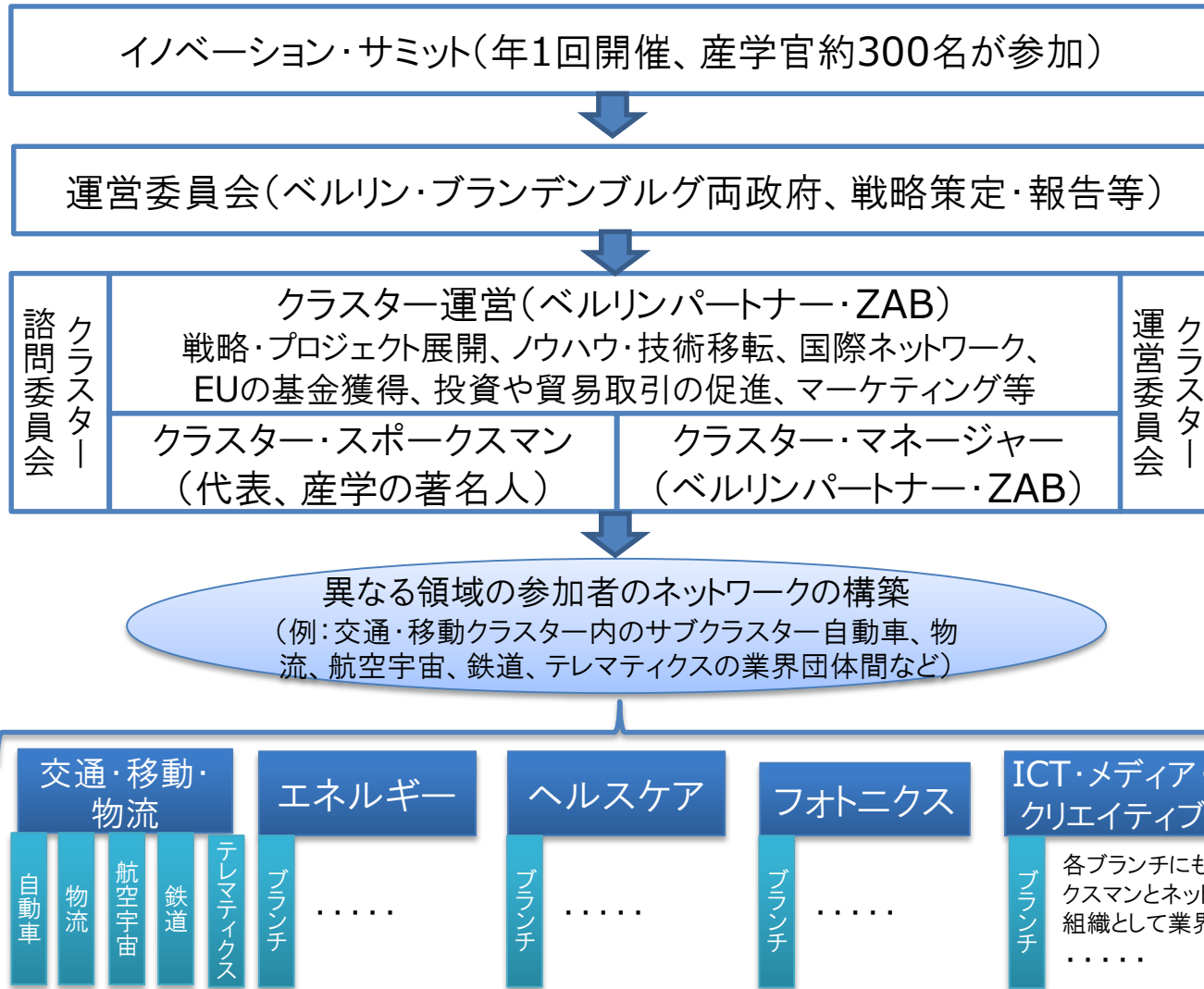
- ① 概念先行型、定義も曖昧→導入に苦戦、地域間格差拡大の可能性
- ② イノベーションの地域への浸透は長期的課題⇔政治情勢変動の影響
- ③ 他のイノベーション戦略との重複→一部競争力が削がれる可能性



問題点や経過を注視しつつ、日本版「スマート・スペシャリゼーション」の在り方を検討できないか

【ご参考】ベルリン＝ブランデンブルクのガバナンス構造

innOBBのガバナンス構造



次世代の国づくり

【ご参考】スウェーデンのVINNVÄXTの概要

内容	スウェーデン・イノベーション・システム庁(VINNOVA)によるイノベーション政策 地域内のプレイヤーが連携してイノベーションを創出する活動を支援 3つの地域クラスターを選出して2003年から10年間実施(地域とのマッチングファンド) 2016年より新プログラムのVINNVÄXT2016開始(10年間の予定)
背景	メディコン・バレーの草の根的取り組みの成功を受け、国として地域イノベーションを支援
目的	<ol style="list-style-type: none"> ① 研究・イノベーションに適する環境整備をサポート ② スウェーデンの(行政区ではなく)機能的地区におけるイノベーションシステムを特定の分野において国際的レベルにまで向上させるよう各プレイヤーを刺激 ③ 産業界や大学のリソースを融合させる触媒機能を果たす
特徴	<ol style="list-style-type: none"> ① 長期間のコミットメント(10年間) ② 企画案の競争によって選抜 ③ 支援活動を実施(研修、学習、経験の披露、研究) ④ 頻繁な評価を行い、常にフォローアップ・リサーチを行う
評価基準 (3回の中 間 評価実施)	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の企業・大学・地方政府の3者の密接な連携(Triple Helix)があるか、とくに トップマネジメントの強いコミットメントがあるかどうか ② 将来の成長分野がどのようなものか、明確にされているか ③ メンバーが共通の戦略やビジョンを共有しているか ④ イノベティブな環境が整っているか ⑤ 研究機関や教育機関が十分に関与しているか ⑥ 企業が積極的に関与しているか(研究中心の分野は望ましくない) ⑦ 連携や相互学習を深めるための措置が取られるか